

ヒアリング調査等の結果報告

【企業内研修、業界団体が主催する研修や対策の取組に関する連携】

ヒアリング・調整対象：沖縄経済同友会

○企業内研修、業界団体が主催する研修や対策の取組に関する連携

- ・沖縄経済同友会のネットワークを通じ、沖縄県地域環境センターの出前講座開催を周知するほか、出前講座の受講申込を取りまとめることも可能である。環境配慮活動に関する企業の関心は近年高まっており、5～6 事業者が出前講座の受講申込をすると期待できる。
- ・河川清掃や海浜清掃活動についても、沖縄経済同友会のネットワークを通じ、清掃日のスケジュールを告知することは可能である。
- ・企業による学校への出前講座だと、出前講座の実施経験や専門性を有する企業に限られると思う。教育現場に限定せず、「プラスチック問題対策への取組を発表する」という主旨にすると、より多くの企業が参加するようになると思う。

○その他（SDGs パスポートについて）

- ・県ユネスコ協会ではSDGs のさらなる普及を目指して「SDGs パスポート」を学生に向けて発行しており、今年 5 月には企業や団体にも配布している（現時点で 3,000 人が登録）。SDGs に関連する社会活動を記入し、スタンプを 30 個ためると認定証がもらえる仕組みになっているが、海浜清掃もスタンプ付与対象になるので、OCCN の参加メンバーが主催するビーチクリーンのスケジュールを県ユネスコ協会でも共有すれば、参加者増加も期待できる。

【プラスチック問題に関する調整を行う関連団体】

ヒアリング・調整対象：那覇市国際通り商店街振興組合連合会、国際通り屋台村

○那覇市国際通り商店街振興組合連合会について

- ・那覇市国際通り商店街振興組合連合会（以下、連合会）は、4つの商店街振興組合をとりまとめる位置づけであり、連合会で決定された方針や取組は各組合にも展開される構成になっている。

○国際通りの現状

- ・街灯用バナーフラッグの取り付け台に、デジタルサイネージを設置する計画が進行中である。デジタルサイネージで得た収益は国際通りの美化・整備活動（ごみの回収など）に活用することを想定している。
- ・表参道（東京都渋谷区）で設置実績のある「SmaGO」を導入することも検討中である。国際通りの利用客に強要することなく、自発的に面白がって「ごみを入れたくなるようなごみ箱」を設置することで、路上ごみ問題の解決に近づけられたらと思う。

○給水スポット設置について

- ・オリジナルドリンクで商売している事業者もいるため、事業者への丁寧な説明と協力が必要である。
- ・周囲を建物で囲まれている国際通りでは、プラごみの流出を想像することが難しい。事業者に説明する際は、使い捨てプラスチックに関する情報から説明し、給水スポット設置の経緯を丁寧に伝える必要がある。
- ・国際通りは、ビジネスチャンスを求めて全国各地から様々な事業者が集まってくる。プラスチック問題対策やSDGsに貢献することで、どういった利益を得られるのか、明確な解答を用意しておかないと協力を得るのは難しい。
- ・連合会としては、国際通りを舞台としたプラスチック問題対策に大いに協力したいが、「市民の生活様式の変化には至らず、ただパフォーマンスでしかない」ものを実施するのは避けたい。

○その他（9月中旬開催の「HAPPY EARTH FESTA2022」について）

- ・9月17～25日に、SDGsに関連するイベント「HAPPY EARTH FESTA」が開催され、国際通りも会場となる予定である。当イベントは今後も開催を予定しており、給水スポット設置の主旨や方向性を発信することも可能である。マスコミも取材する大規模イベントであり、発信効果は高い。
- ・ごみゼロチャレンジと称して、県内離島をふくむ3つの小学校の生徒に「わたしたち

にできるごみゼロチャレンジ」について考えてもらい、イベント期間中に発表する取組を実施予定である。

- 県内のごみ問題について考えるきっかけづくりとして、セミナーも開催予定である。

【給水スポット設置に関する先進事例に取り組む関係事業者】

リゾートホテルにおける給水機の導入

ヒアリング・調整対象：星野リゾート西表島ホテル

○利用無料のウォーターサーバー（ドリンク込み）の導入、マイボトル持参を推奨する取組のきっかけと理由

- ・島内では現状、ビニール、プラスチックのリサイクルルートがない。
- ・産廃処理業者が八重山地域に1社しかなく、産廃処分量を軽減する必要があった。
- ・エコロジカルなホテル経営として、ペットボトルとアメニティーの量を減らしていくことが最初の課題であった。
- ・貴重な動植物の保護につながる活動と、ごみ処理の点から西表島の持続性を追求するための活動の一環として始めた。

○具体的な取組内容

- ・衛生面については、水質・コロナ禍に対応するため、1Fロビーにウォーターサーバーを3台設置して管理した。ウォーターサーバーは1時間に1回清掃を行うことで、清潔さを保っている。また、ウォータージャグを客室に配置し、マイボトル洗浄用のブラシも貸出を行っている。
- ・マイボトルの無料貸し出しも実施している。
- ・マイボトルを持参することの「楽しみ」の要素として、コーヒーや紅茶6種と、ティータイムにぴったりなお菓子を提供している。また、通常のお湯も提供している。
- ・エコツアーを行う中で、利用者に自然の価値を理解してもらい、ワンウェイプラスチック削減の取組が間接的に西表島の自然に貢献していることを説明している。

○利用状況（持参率）、お客様のからの声について

- ・利用者の60%がマイボトルやアメニティーを持参してくる。
- ・「思ったよりなくても大丈夫だった」というご感想の方が多い。コーヒーや紅茶などを提供し、ペットボトルを購入する場合と同様のフレーバーを楽しめるようにしたことも寄与していると思う。
- ・その一方、「コストカットに見えてしまう」「サービスが低下しているのではないか」という声が寄せられることもある。
- ・20～30代の若い世代からは、取組に賛同する一方で、「具体的に何につながり、どういったことが良くなるのかを知りたい」という感想も寄せられた。
- ・ペットボトルの使用を控えることが、利用客にとって不便にならないよう、導入に際して様々なアプローチを検討した。現在では、むしろ楽しみにしている利用客もい

る。

- ・ こういった CSV 視点をもつことがそれらの取組の持続性を高めることにつながるとして、活動計画の上で重要視している。

○導入後に見えてきた課題、それに対する解決策

- ・ 一番の課題は、ごみ処理に関してインフラ整備が整っていないことだと思う。八重山には産業廃棄物処理業者が1社しかないため、処理業者まかせにするのではなく、行政がリードして処理ルートを支えることが大切だと思う。観光事業者としてコミットできる部分とそうでない範囲があるため、行政が主体となり、観光事業者などが地域一体となって進行していく方向性が重要だと考えている。
- ・ 地域をあげての取組としたい。ターミナルや島内の集合場所などに給水場所を設置することで、島内のどこにいても、不便を感じることなくマイボトルを利用できるようにしたい。
- ・ お客様が取り組むにあたり、「楽しさ」を損なうことがなく、お客様にとって負担のない取組であることを心掛けた。「楽しみ」の要素として、先述のように各種フレーバーやお菓子を提供している。
- ・ 取組を始めたのはコロナ禍の最中にあったこともあり、衛生面にはかなり配慮する必要があった。ウォーターサーバーやその周辺の定期的な清掃による衛生管理、マイボトル洗浄用の清掃用品の貸出を行う事で清潔さを保っている。
- ・ また、貸出を行うボトルの洗浄は衛生面のリスクを排除するため、高温で洗浄を行う必要があった。このため、高温の食洗器にも対応したボトル選びが大変だった。最終的に選んだ耐熱のプラスチック製ボトルは、通常のプラスチック製のボトルより高価ではあるものの、耐久性は高く、重宝している。
- ・ 廃棄コストが減った一方で、そのコスト減以上にペットボトルの販売による収益があったのも事実である。ただし、短期的な収益という観点での評価は一度据え置き、持続性を優先したいと考えている。しかしながら、事業者にとって収益ロスが出続ける状況では、持続性が減衰する。「一方よし」では続かない。ペットボトル単体視点での収益性だけでは解決できる問題ではないと考えており、こういったサステナブルな観光の価値が高まることで、島全体の宿泊滞在が促進（観光振興）され、これらの活動の持続性がさらに高まっていくものと考えている。